

1 自己評価及び外部評価結果

(ユニット名 ふきのとう)

事業所番号	O673200283		
法人名	社会福祉法人さくら福祉会		
事業所名	グループホームみどり		
所在地	山形県酒田市砂越緑町5-43		
自己評価作成日	平成 26年 1月 20日	開設年月日	平成 14年 3月 1日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

法人の「ご利用者様がその人らしく生活し、笑顔で過ごされる事をどこまでも支援します」という理念のもと、「心からの笑顔あふれるみどりの生活」を事業所の理念に掲げ、もし、自分がこの方だったらどうしてほしいか、自分の家族だったらどうしてほしいかを考え支援する事に力を入れています。入居者様一人ひとりの想いに寄り添い、時には言葉にできない希望を読み取り、支援する事で、入居者様が毎日笑顔で生活できるようなグループホームを目指しております。

※事業所の基本情報は、公表センターページで検索し、閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 <http://www.kaigokensaku.jp/O6/index.php>

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

買い物や散歩に出かけて気軽にあいさつを交わしたり、地域行事に利用者も一緒に参加するなど、さまざまな活動を通して地域とのつながりを大切にしています。一人ひとりの思いを尊重し家族の意向を踏まえて、その人らしい生活と心の通うケアに努め、毎日を元気で楽しく暮らしてもらえるように支援しており、賑やかな笑い声中に利用者同士の馴染みの関係が垣間見え、和やかな雰囲気は漂う事業所です。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 エール・フォーユー		
所在地	山形県山形市小白川町二丁目3-31		
訪問調査日	平成 26年 3月 3日	評価結果決定日	平成 26年 3月 17日

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

山形県地域密着型サービス「1 自己評価及び外部評価(結果)」

※複数ユニットがある場合、外部評価結果は1ユニット目の評価結果票にのみ記載します。

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I. 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	全職員が、共通の意識を持ちサービス提供できるよう、平成23年にBS法を行い、理念の構築を行いました。理念は事業所4箇所に掲示し、職員はスタッフの心得と一緒に携帯する事で共有理解と理念の実践につなげています。	理念に沿うとはどんなことなのか、どの様に関わることで実現できるのか、年度初めに全員で理念の本質を求めて話し合い意識づけを図っている。利用者一人ひとりの人格を尊重して、統一したケアに努めている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運動会、文化祭、夏祭りなどの地域行事へ参加したり、中学生の職場体験の受け入れを行う事で交流を深めております。日常的には、地域散歩を通じ、近隣の方々と交流しております。	文化祭に利用者の作品を出展したり、行事へ参加することで地域とのつながりができている。気軽にあいさつを交わし、ホームだよりの回覧などで地域の理解も深まり、ケアの拠点となっている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	年4回ホーム便りを町内の方より回覧していただいております。その中で認知症や介護の事でお困りの方はお気軽にご相談下さいという文面を掲載し、その情報発信をしている他、運営推進会議では認知症ケアについての議題で認知症についての理解を深めていただいているつもりです。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は概ね2ヶ月に1回開催し、非常時の地域との協力体制について確認したり、地域行事について情報提供いただくなど、会議を通じて地域との繋がりを深める事もできています。	利用状況や現状の取組み内容と併せて意見交換をしている。地域行事の紹介や些細な出来事も報告して透明性を図り、災害時の協力体制と事業所から地域へ協力できる範囲について話し合い、双方向的関係を築いている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営面での疑問に対しては、担当課に問い合わせると、的確な返答をいただくことができています。包括支援センターの方からは、推進会議を通じて、サービス中に起こってしまった事故の再発防止に対してのアドバイスをいただく事もできました。	運営推進会議実施報告書の提出と、事業所の実情やサービスの取組みなどさまざまな課題について相談に訪れている。地域包括支援センターが推進会議に出席し、いろいろなアドバイスをもらい、互いに連携を深めている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、環境や利用者の状態を考慮しながら、玄関に鍵をかけない工夫や、身体拘束をしないで過ごせるような工夫に取り組んでいる	日中はチャイムを使用し、玄関は鍵をかけておりません。身体拘束については、外部研修への参加の他、事業所で勉強会を行い理解を深めております。また、身体拘束廃止委員会を設け、毎月、身体拘束に該当する事はないかチェックし、身体拘束を行わず、その人らしく生活できるよう支援しております。	「身体拘束廃止マニュアル」を作成して周知を図り、統一した関わりを行っている。委員会が中心となり業務内容を点検し、拘束のないケアに努め、外出しそうな様子を察知した時には傍に寄り添い、利用者の安全を確保しながら抑圧感のない自由な暮らしを支援している。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	事業所内外の研修を通じ、虐待防止に関する理解を深めております。虐待の根底にある不適切なケアもないよう、毎月の職員会議でセルフチェックを呼びかけております。			
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	事業所内外の研修を通じて制度の理解を深めるとともに、今年度は、成年後見人制度利用者が選挙権を持つ事ができた事を機に、更に制度利用について学ぶ機会を設ける事ができました。			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居に際しては、じっくり考えられるような時間を持ってもらい、不安の少ない状態で入居できるよう説明の時間を設けております。グループホームの生活支援の中でできる事だけでなく、できないことも説明し、納得いただいたうえで契約を行っております。			
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご利用者、ご家族より寄せられた意見は職員間で情報共有する事で改善、質の向上に繋がっています。苦情に関しては、外部への苦情申し立ての連絡先を入所時に説明する他、玄関先へも掲示しております。	家族アンケート等を隔年で行い、家族会や推進会議の話題についても職員会議で検討し、業務に活かしている。意見・苦情等があれば相談・苦情票に記載して対応できる体制を整え、業務改善と質向上に繋いでいる。		
11		○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1回のユニット会議と職員会議で意見を出してもらい、業務改善に繋がっているほか、半年に1回の自己評価の際、業務改善案を出してもらっています。			
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	半年毎に自己評価を作成し、自己評価をもとに面談を行っています。自己評価では、できない所ではなく、頑張った所を認め、更なるレベルアップの為のアドバイスをを行っているつもりです。			
13	(7)	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個々に年間研修計画を立て、年1回以上の外部研修の機会を設けている他、月に1回2テーマずつ内部研修を行っています。	年間研修計画を掲げてそれぞれの項目を示し、経験と習熟度に応じて調整を図り受講の機会を与えている。研修後は伝達講習で共有し、内部研修と合わせて全体のスキルアップを図っている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
14	(8)	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	法人内のグループホームで職員同士が委員会等で情報交換を行っている他、グループホーム連絡協議会に加盟し、研修や交換実習を通じ、ネットワーク作りをおこなっています。	法人内の業務改善・事故対策予防など各種委員会を通じて問題や課題等を提起し、意識づけを図ってサービスの向上を目指している。感染症マニュアルの作成やヒヤリハットを取り入れ、業務改善も行っている。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	できる限り不安の少ない状態で入居を迎えられるよう、事前の面接を行い、説明の機会を設けています。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	担当ケアマネージャーからも間に入っていただきながら、ご家族も不安の少ない状態で入居を迎えられるよう、事前に見学していただいたりホーム便りなどの書面でホームの様子を見ていただくなどしています。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	年1回、11月～12月に入居申込み者の現況調査を行い、ケアマネージャーからもご協力をいただき、「今入居したいのか」「将来的な入居申込み希望なのか」をお聞きした上で、なるべく早く入居したいという方から入居の検討をすすめております。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は、「入居者様は人生の先輩である」という気持ちを忘れず、その人らしい暮らしを送る事ができるような役割を持っていただき、難しい所を職員がサポートしたり、一緒に行ったり、入居者様同士、同じ役割を持つ事で馴染みの関係を築いております。			
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月、1ヶ月の生活状況をご家族様に報告する他、体調不良や精神的な不安など見受けられた際は、ご家族へ連絡し、入居者様についての情報をご家族と共有できるようにしています。			
20		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人が以前暮らしていた地域へ出かけたり、お祭りなどに参加し、なじみの場所へ外出する事を支援しております。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	家事作業を通じ、同じ作業を行う事により、入居者様同士協力しあえる機会を設け、活動参加を通じて、入居者様同士の交流が円滑になるよう働きかけております。			
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	生活の場がグループホームから別の場所へ変わる直前まで支援をたたく、その時その方が最も必要としている生活支援を受ける事ができるよう相談、支援を行っています。			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式のアセスメントを行い、利用者の想いの把握に努めています。困難な場合は、日々のコミュニケーションからのヒントをグループノートに書きとめ、情報共有しながら、「望む生活」に近づけるよう支援しています。	コミュニケーションを図ってそれぞれの自分らしさを引き出し、利用者の視点に立って思いや意向の把握に努めている。日々の行動など観察結果について検討し、表出が困難な場合でも生活歴や表情から思いを汲み取り、職員全員で取り組んでいる。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に、ご家族に「人生のあゆみ」を解る範囲で記入していただき、生活歴を把握する他、日々の利用者様とのコミュニケーションやご家族の面会時のお話の中からも、聞き取りし、把握に努めております。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	センター方式のアセスメントで今できる事やできそうな事を把握する他、毎月ユニット会議を開催し、現状の把握に努め、その情報を職員間で共有する事で統一した対応ができるようにしております。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居者様や、ご家族からの希望の他、職員がご利用者様の視点で支援してほしい事、望む暮らしを考え、意見を出し合い、介護計画を作成しています。	アセスメントやモニタリングにより課題を明らかにして、本人家族の意向を踏まえ職員全員の意見が反映するように努めている。自分の力で今できることを無理なく継続できるように目標を掲げて介護計画を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケア実践については、個別記録に記入し、ケアを行いながら気付いた事、工夫については、グループノートを活用しております。また、月に1回のユニット会議で提案、検討し、より良いチームケアにつながるよう、情報共有しております。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化(小規模多機能型居宅介護事業所のみ記載)</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>				
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>入居様が安全に生活を送る事ができるよう、自治会や消防団、交番などに協力をお願いしております。今年度は、地域散歩をしたり、外出する機会を設ける事で閉じこもり防止、気分転換にも繋がっています。</p>			
30	(11)	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、かかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>かかりつけ医は、入居者様、ご家族の希望する医療機関となっており、入居時、ご家族と受診先や、受診方法について確認しております。協力医への定期受診と急変時には職員が付き添いを行い、医師の指示のもと、その時に必要な医療を適切に受ける事ができるよう支援しております。</p>	<p>医療機関とは常に連携を図っており、受診結果は家族等と共有し、職員間でも看護支援経過記録や業務日誌に記載してミーティング等でも内容を報告している。希望する利用者は市の健康診断を受けて健康管理に繋がっている。</p>		
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>異常の早期発見、早期対応ができるよう、介護職と看護職の関係を密にしながら、情報共有し、日々、健康管理を行う上でのアドバイスや指示を受け、実施する事で、利用者様の健康管理に繋がっています。</p>			
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、入院治療が必要な可能性が生じた場合は、協力医療機関を含めた病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>入院に際しては、ご家族より同意を得、入院先へ情報提供し、面会をさせていただき、入院中の状態把握を行っております。幸い、今年度は1泊入院のみで経過する事ができています。</p>			
33	(12)	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、医療関係者等と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>入居の際に話し合いを行う他、状態変化時や介護度が変わったときなどその確認を行っています。看取り介護をチームとして取り組む為、職員の恐怖心も軽減し、自然な死を受け入れられるよう看取り介護の勉強会を行っています。</p>	<p>重度化した場合や看取りについての事業所指針があり、家族等にも説明し確認を行っている。看取り介護を希望する方には医療連携体制を実施し、住み慣れた事業所での尊厳あるターミナルケアを目指している。</p>		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	状態急変時の対応は、内部研修を通じて対応方法を身につける他、救命救急講習へ参加する機会を設けております。事故発生時の対応については、内部研修の他、事故対応マニュアルをもとに、対応し、また、ヒヤリハット報告からのカンファレンスをもとに、事故防止につながるよう、対応しております。		/	
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災想定、地震想定避難誘導訓練を実施し、安全に避難誘導できるよう、訓練しています。年1回、総合訓練を実施し、近隣の方や、近隣の事業所からの協力体制を確認しています。また、運営推進会議で、地域の方に対し、事業所で可能な災害時の協力について、提案しています。		5月は夜間想定、7月に総合訓練、9月消火器・召集訓練を実施し、総合訓練時には近隣の方から誘導先での利用者の見守りをお願いしている。毎月防災自主点検を行い、冬期間の除雪には近所の方の協力もある。	

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	「利用者を禁止しない、評価しない、否定しない」というスタッフの心得のもと、入居者様が日々、穏やかに生活できるよう、声掛けの内容だけでなく、声掛けのトーンにも配慮し、コミュニケーションをとっています。		生活歴や家族等からの情報を職員間で共有して接遇にあたり、抑制の言葉にも気を付け「ちょっとまって」と言わないように「ちょっと」の内容を具体化して声掛けするように心がけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表現したり、自己決定できるように働きかけている	日々の会話の中で入居者様が、思いや希望を言いやすいよう信頼関係を築いているつもりです。入居者様の認知症を理解した上で、ご自分の思いを言葉に表現する事が難しい方に対しては、選択肢を挙げて声掛けするなどし、対応しております。		/	
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	毎日、それぞれの希望にそった過ごし方ができているわけではありませんが、皆で何かをする時間の楽しさを感じていただきながら、1日の中で、1人の時間を寛ぎたいという希望があったり、元々、1人でゆっくりしている事を好む方に対しては、無理強いはせず、生活していただいています。		/	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入居者様の居室には、全室洗面台があり、できる方は、お部屋でひげそりや、ブラッシング、お化粧をされています。入浴の際の着替えは、可能な限り、ご自分で選んでいただき、準備していただいています。		/	
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の下ごしらえ、もりつけ、配膳、下膳など、準備から片付けまで、できる事や出来そうな事に対しては、可能な限り、役割として取り組んでいただくよう、声掛けや誘導を行っております。		法人のメニューで利用者の手を借りながら食事作りをしている。嗜好調査も実施し、時には食べたい物を自分達で買い物に行き選ぶ楽しみも味わっている。天候の良い時季は毎月の様に外食に出かけ喜ばれている。	

自己	外部	項目	自己評価		外部評価							
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容						
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事形態や栄養バランスについては、血液検査の結果などをもとに、看護師と相談し、提供しています。また、水分量については、摂取量を観察し、1日1000c以下の方を申し送り、連日、摂取量が少ない時は、看護師やかかりつけ医と相談するなどし、脱水予防に努めています。		/							
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後、口腔ケアを行い、口腔内の清潔保持に努めています。									
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄行為に介助を要する方については、プライバシーに配慮しながら、排泄リズムや、排泄パターンを観察し、個々に誘導を行いながら、可能な限り、トイレで排泄できるよう支援しています。				尿意・便意がわからない方、身体状態で間に合わない方は定時誘導し、しぐさやサインなど日々の状況をミーティング時に話し合い、職員間で連携した支援に取り組んでいる。					
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日、排便確認を行いながら、自然排便が難しい方は、医師からの指示のもと、下剤を使用しております。食事面では、繊維質の食品を食べる事が難しい方に対し、ヨーグルトを提供し、便秘が少しでも解消できるよう、工夫しているつもりです。				/					
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、事業所の都合だけで曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	冬期間は、保湿効果のある入浴剤を使用し、入浴を楽しみながら、乾燥による体の痒みが軽減できるように努めています。入浴を好まない方については、無理にすすめず、全身清拭やシャワー浴、足浴など、その方の意向を尊重しながら、清潔保持に努めております。						曜日や時間を決めずに、利用者の希望に合わせて入浴している。暖房やシャワーで脱衣所・浴室を温めて温度差に配慮し、職員は皮膚状態など全身チェックをして会話を楽しみながら支援している。			
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々に、ゆっくり休める環境を把握し、空調や照明を調整しながら、安眠に繋げております。日中、体力的に、長時間の離床が難しい方については、その方の体力に合った離床時間を確保し、休息の時間を設けています。						/			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	安全に服薬できるよう、薬のセットから服薬、飲込み確認まで、最低でも職員2名で行っております。また、医師からの診察情報提供書をもとに、症状観察しております。								/	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	今できる事を日々の役割として継続できるよう支援しています。季節行事やドライブなど、1人ひとりが喜びのある日々をすごせるよう支援しております。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	冬期間・雨天時は中止していますが、今年度、町内散歩に力を入れ、入居者様の「歩く」機能を低下させないよう、散歩を日課として取り入れました。また、地域の行事への参加や外食ドライブなど、外出を通じて気分転換となるよう企画、実施してきました。	今年度の目標に地域散歩を掲げ、近隣の方との交流や体力づくりが日課となり達成できている。利用者に人気の外食を積極的に取り入れ、三角公園や日和山へのドライブなど外に出る機会を多く持ち気分転換を図っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族と相談し、ご自分で金銭管理ができる方については、ごお小遣いを持っている方もいらっしゃいます。金銭管理が難しい方や買い物が億劫だとおっしゃる方については、一緒に買い物に出かけたり、買い物支援をしたりしています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族との電話はいつでも、ご希望のあった時、対応しております。手紙については、母の日や暑中見舞い、年賀状などを、ご希望のある入居者様から作成していただき、ご家族との手紙のやり取りの機会を定期的に設けています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールに季節の花を飾ったり、入居者様の作品を飾ったりしています。また、共用ホールには季節の歌を飾り、一緒に歌う事で、楽しく生活できる場を提供しています。	利用者の作品や写真が展示された手作り感のあふれるホールでは、食器を洗ったり、折り紙やぬり絵に熱中している方など、力が発揮できる事や自分の好きな事をして一日を楽しく過ごしている。冬は湿度をこまめにチェックし乾燥に気を付けている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂で1人になる空間を作る事は難しいものの、中央ホールは、入居者様の好きな時間に気の合う方と談話できるよう、ソファを設置しています。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	グループホームの生活が、ご自宅の生活の延長線上にあり、より、ご自宅での生活に近い環境となるよう、使い慣れた物を持ってきていただいています。ご希望があれば、事業所のソファを貸し、面会に来た方やホーム内の気の合う入居者様と楽しく談話できるようにしています。	私物の持ち込みも自由に、その方らしい部屋作りをして掃除も日課にしている。洗面台が各居室に備えてあり、朝起きた時には清拭をして気持ち良く暮らせるように配慮している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下・トイレ・お風呂には手すりを設置し、安全に移動できるよう配慮しております。ご自分のお部屋がどこかわからなくなってしまう方もいらっしゃる為、お部屋がわかるよう、ご家族の写真を貼ったりし、居室内だけでなく、扉も、個性のあるものになるよう、工夫しております。			